

**2014年度 日本文化人類学会
第4回理事会 議事録(案)**

日時：2014年10月12日(日)14時～18時30分

会場：関西学院大学 東京丸の内キャンパス ランバスホール

<出席者> 関根、赤堀、池田、石田、上杉、太田、春日、亀井、岸上、栗田、桑山、慶田、田中、
真島、松田、松村、山本

<委任状提出>岡田、窪田、湖中、瀬川、名和、和崎

[承認事項]

1. 2014年度第3回理事会議事録
2. 新入会員(10名)につき、総務会で入会を承認したことを報告の上で事後承認。
3. 「東日本大震災の被災会員に対する2014年度会費徴収特例措置」の申請2件について、総務会の事前検討に基づいて審議の結果、事後承認。

[報告事項]

1. 会長報告
 - ・WCAAとIUAESの体制について確認を行ったことを報告。「WCAA International Delegate(「各国代表」)については、原則として会長選任の際(総会時)に、これを選任する」とした理事会決定(2005年11月6日)に基づき、関根会長が今期Delegateに就任したことを報告。また、Alternateは別に置くこと、今期は窪田理事が就任したことを確認。
 - ・2014年10月に台北で開催されたWCAA会議へ窪田理事が出席したこと、この会議においてWCAA執行部役員選挙が行われ、関根会長が候補者となったが選任されなかったことを報告。
 - ・AAAよりBreakfast invitationが届いていることを報告。出欠については会長に一任することとした。
2. 庶務理事報告
 - ・2014年度朝日賞(人文)候補者の推薦を行ったことを報告。
 - ・学会後援を行ったCELAOの第6回研究大会(2014年9月16日～18日)について大会実行委員長より報告書が届いたことを報告。
 - ・第10回日本文化人類学会賞受賞候補者について評議員への投票依頼(10月27日締切)を行ったことを報告。
3. 会計理事報告
 - ・今年度の公開シンポジウムの会計報告書が提出されたことを報告。
 - ・各地区研究懇談会に対し証憑書類の管理を依頼した。
 - ・次世代育成セミナー開催にあたり、事前に次世代育成セミナー費と文化人類学教育委員会費から一部概算払いを行うことを報告。
4. 総務理事報告
 - ・学会主催公開シンポジウム「大学で学ぶ文化人類学—フィールドワーク教育の試みと可能性」(2014年7月26日開催、於名古屋)が開催されたこと、新しい試みとして手話通訳者を配置したことを報告。今後何らかの形で本シンポジウムの成果発表を行う可能性について意見交換がなされ、毎年の公開シンポジウムの成果をブックレット等にしてはどうか等の意見が出された。
 - ・平成27年度科研費補助金成果公开发表(B)の計画調書について、来年度担当の鏡味治也会員より提出された原案に基づき説明があり、意見があれば真島理事へ連絡するよう依頼した。
5. 広報理事報告
 - ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき10件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。
 - ・国立情報学研究所より現在学会誌を公開している電子図書館事業(NII-ELS)終了に係る諸手続きについて案内が届いたことを報告。2016年3月末日までに移行申請を行う必要があり、移行先について「国際情報発信強化」特別委員会を中心に検討を続けていくことを確認。
6. 各種委員会報告

- ・『文化人類学』編集委員会：79巻2号の刊行と3号の進捗状況について報告。
- ・JICA編集委員会：Vol. 15の進捗状況とIUAESパネルからの特集論文が順調に集まっていることを報告。
- ・「国際情報発信強化」特別委員会：平成27年度科研費国際情報発信強化（B）の計画調書原案について説明があり、意見交換を行った。
- ・法人化検討委員会：9月上旬に委員会を開催し、法人化によるメリット、デメリット等を含め検討を行ったことを報告。今後は、12月に委員会の答申案を理事会へ提出、理事会で検討の上、2015年度総会に提案、2016年度総会に定款を提案、というスケジュールが想定されることを確認。
- ・学会歴史委員会：次の4点について報告、確認を行った。
 - ①「人類学者・民族学者」映像記録の国立民族学博物館ならびに神奈川大学常民文化研究所における公開に関する経緯について確認を行ったことを報告。今後、常民文化研究所での公開に向けて、学会と常民文化研究所との間で「人類学者・民族学者」映像記録に関する利用規程（仮称）を作成することを確認。
 - ②「民族研究講座」講義録（速記録）について、著作権の問題が解決したため、公開を進めること、公開に関する文書を常民文化研究所と学会との間で取り交わす必要があることを確認。
 - ③今後、常民文化研究所が他の旧民族学振興会文書資料公開を順次進めるにあたり、従来の学会と常民文化研究所との取り決めの改定を検討する必要があること、改定文案は学会歴史委員会より理事会に提出することを確認。
 - ④以前作成された旧民族学振興会資料の公開レベルに関する資料を確認したことを報告。
- ・地区研究懇談会：各地区の研究会開催状況、開催予定を報告。
- ・倫理委員会：10月12日に委員会開催予定であることを報告。
- ・学会賞検討委員会：10月12日に委員会を開催したこと、次回理事会へ改正案を提出予定であることを報告。
- ・文化人類学教育委員会：昨年度の答申を受けて、若手WGで検討を行った次の3件について報告。
 - ①若手会員間で就職情報等を共有するシステム構築の必要性があり、手始めにFacebookアカウントを開設した。
 - ②学会による資格の付与の可能性について検討を行った。
 - ③求人する大学側の情報と大学院教育の現状とを把握するために、今後各大学の状況について調査を進める予定である。
- ・次世代育成セミナー実施運営委員会：2014年度次世代育成セミナーについて、西日本会場は11月8日（於民博）、東日本会場は11月22日（於一橋大）に開催予定であることを、セミナー発表者は計8名となったことを報告。

【審議事項】

1. 50周年記念事業の収支決算について
 - ・赤堀理事より、学会50周年記念事業の収支決算報告については内部監査に向けて準備中であることが報告され、資料に基づき千葉県と千葉市へ提出した収支決算書を確認した。なお、事業全体の決算報告については、学会監事の監査を経て確定することを確認した。
 - ・石田理事より、第48回研究大会報告書について説明があり、会計報告の収入のうち、懇親会費と書店等販売スペース代、国際大会参加者の参加費については学会50周年記念事業準備委員会へ送金済みであることが報告された。第48回研究大会会計報告については、学会監事の監査を経て確定することを確認した。
2. 第4回三島海雲学術賞学会推薦について
 - ・松村理事より、第4回三島海雲学術賞学会推薦候補者の受付を7月20日に締め切り、選考を実施し、選考結果を応募者に通知したことについて説明があり、審議の結果、承認された。
3. 高齢会員・若手会員の会費減免措置について
 - ・松村理事より、第24期で検討されてきた高齢会員・若手会員の会費減免措置の内容、経緯について説明があり、措置の実現に向けて継続審議とすることとした。
4. 次世代育成セミナーの共同開催について
 - ・春日理事より、2015年度以降の次世代育成セミナーについて、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所からの同研究所で実施されている「文化/社会人類学研究セミナー」との連携・共同開催の提

案内容について報告があり、次世代育成セミナー運営委員会において検討された連携・共同開催によるメリットとデメリットについての説明がなされ、審議の結果、共同開催にあたり対処が必要な点があることを確認した上で、同研究所からの提案を受け、東日本会場での共同開催を進めることが承認された。

5. 国際シンポジウム「国際情報発信強化と東アジアネットワーク構築にむけて」
 - ・桑山理事より、2014年度科学研究費採択事業「日本発東アジアネットワークの構築を基幹とする文化人類学的研究の国際情報発信強化」の一環として開催される国際シンポジウム（11月22日開催、於法政大）の概要について説明があり、審議の結果、シンポジウムの名称を「国際化する日本の文化人類学と国際情報発信強化の試み」、第二部討論会のタイトルを「内外の人類学的研究を橋渡しする」とすることが承認された。広報にあたっては、桑山理事がチラシ原案を作成し、真島理事がとりまとめを行った上で、印刷・配布等の手配は総務会に一任することとした。
6. 「国際情報発信強化」特別委員会の開催について
 - ・桑山理事の指示に基づき、真島理事より、来年度の事業実施に向けて、「国際情報発信強化」特別委員会を開催（12月14日開催、於上智大）することが提案され、審議の結果、承認された。開催にあたっては、関根会長と桑山理事がこれまでの論点メモを提出し、欠席する委員は事前に所見を提出することとした。
7. WCAA から寄付依頼への対応について
 - ・関根会長より、WCAA から例年寄付依頼があること、これまでの理事会の対応について説明があり、審議の結果、過去の例に従い、今年度もWCAAへWCAA 関連費より500ドルを送金することが承認された。
8. 第49回研究大会の参加費・懇親会費について
 - ・岸上理事より、第49回研究大会の収支予測に基づいた大会参加費・懇親会費の金額に関する提案があり、審議の結果、大幅な増額をしない方向で例年に準じた金額設定を行い、会場費の高騰等による不足分については、研究大会補助金の増額によって対応することとした。
9. 学会誌表紙デザイン変更について
 - ・田中理事より、『文化人類学』の表紙デザインの変更について編集委員会で検討を進めていることが報告され、審議の結果、81巻からの変更を目途に委員会で検討を進めることとした。
10. その他
 - ・桑山理事より、JRCA 編集委員の3名追加について提案があり、承認された。

以上